



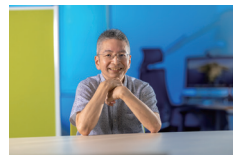
ソーシャルイノベーション

行動経済学

感染症総合教育研究拠点・大学院経済学研究科

特任教授 大竹 文雄

Researchmap <https://researchmap.jp/ohtake>



研究の概要

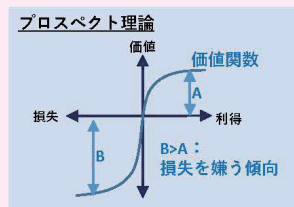
伝統的な経済学では、人々は非常に合理的で、素晴らしい計算力をもっており、自分の利益のみを考えて行動する人々を前提にして、経済の動きを説明してきた。しかしながら、人間の意思決定には合理的決定から系統的な“ずれ”があることが実験研究や実証分析から明らかにされており、これが行動経済学の始まりである。

現実の人々は、必ずしもいつも最適な選択をしているわけではないため、行動経済学をうまく使うと、人々の選択の自由を維持したまま、人々はよりよい選択ができるようになる。

大竹研究室では、損失回避、現状バイアス、社会的選好、限定合理性という現実的な人間像の特徴から、様々なシチュエーションにおける現実の人間の実際の行動を理論的に予測・検証し、行動経済学を現実社会の様々な課題の解決に活用しようとしている。

社会実装に向けた将来展望

行動経済学は、理想的な人間と、現実の人間とのギャップを通して、働き方改革、マーケティングなど、人間の社会活動の様々な課題の解決に活用できる。



特許

論文

大竹 文雄, 坂田 桐子, 松尾 佑太, 「豪雨災害時の早期避難促進ナッジ」, 『行動経済学』, 2020, 13 巻, p. 71-93, <https://doi.org/10.11167/jbef.13.71>

参考URL

<http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/~ohtake/index.htm>

キーワード

行動経済学、ナッジ、感染症、防災、労働

「仕掛学」 ～行動変容の理論と実践の研究～

経済学研究科

教授 松村 真宏

Researchmap <https://researchmap.jp/matamura>



研究の概要

松村研究室で研究している仕掛学は、人の行動を変える「仕掛け」を対象にした新しい学問分野である。仕掛けは行動変化を強制するのではなく、魅力的な行動の選択肢を増やすことで目的の行動に誘うアプローチをとる。例えば、ゴミ箱をただ設置してもゴミを捨てたくはならないが、ゴミ箱の上にバスケットゴールを付けるとゴミでシュートしたくなり、結果的にゴミ捨て行動が促進される。

松村研究室では、さまざまな現場を対象にして実際に仕掛けを考案して作成し、実際の現場で実験し、効果の検証に取り組むことを通じて、行動変容の理論と方法の構築に取り組んでいる。

社会実装に向けた将来展望

仕掛学はマーケティングなどさまざまな分野に応用が可能であり、鉄道駅やショッピングセンターでの人流抑制など、実際の現場での実証実験なども積極的に推進中である。



ゴミ箱の上にバスケットゴールがあるとゴミでシュートしたくなる



つい手をつっ込みたくなる真実の口型手先消毒器



特許

論文

Naohiro Matsumura, Renate Fruchter, Larry Leifer (2015) Shikakeology: Designing Triggers for Behavior Change, AI & Society, Springer Verlag, Volume 30, Issue 4, pp. 419-429. c.30(4):419-429(November2015)

参考URL

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/storyz/storyz_research/201703_special_issue03

キーワード

仕掛け、行動、変化、行動理論